五十鈴グループが社員総会

「協進化」で鉄鋼流通の未来描く

「オールウィンウィン」の歩み共有

未来社会づくりへ前進

メタルワンと日本製鉄が出資する大手コイルセンター、五十鈴（本社・東京都千代田区、社長・鈴木勝氏）は13日、東京・有楽町のよみうりホールでグループ社員総会を開催した。当日は総勢771人が参集。役員や社員が一堂に会し、2025年度の優れた成果を振り返るとともに、さらなる成長への結束を誓い合った。

冒頭、挨拶に立った鈴木社長は25年度の実績について、販売重量が前期比12・9％増の105万㌧に伸長し、純利益も大幅に増加して過去最高益を達成したことを報告。さらに非財務指標の成果として、働きがい指数（GPTW）「朋」による業界の持続化、富士興業（大阪市此花区）とのロジスティクス連携、サイクラーズ（東京都大田区）との循環型リサイクル事業という四つの先駆的な協業プロジェクトが紹介された。その後、実際にプロジェクトを推進する社内外の担当者らによるパネルディスカッションも行われた。

休憩を挟んで再び登壇した総会前半には、取引先や同業他社とともに進化を目指す「協進化を育む『オールWin』」をテーマとしたムービーを上映。東海エリアにおける流通最適化、藤田金属（新潟市）と進める「有ネガティブな思い込みを捨て自らの強みを伸ばし、本当のやりがい・働きがいを楽しく創るビジョナリーカンパニー」の実現に向けた基本方針を提示。「働きがい」とは目標に向かう過程で壁を突破した際に得る「手応え」であるとし、鈴木社長は、「生きがい・やの価値（真価）を発揮する重要性を訴えた。自己成長を土台に周囲への具体的貢献を積み重ねることで「オールWin―Win」の輪が広がるとし、この理念を鉄鋼産業全体へ伝播させ、未来社会づくり（ISX）に貢献していく決意を力強く語った。

また、27年1月から稼働予定の新基幹システム名が、社内公募により「SMILE（Steel,Management,Innovation,Logistics,Engagement）」に決定したことも発表。同システムを通じて鉄鋼流通における業界革新を目指し、社員のエンゲージメントを最大に高めて全員が「笑顔」になるという意味を込めた。このほか、同社の沿革を巡るクイズコーナー「ブラ五十鈴」も催され、優秀者への景品贈呈などで会場は大いに盛り上がった。

来賓挨拶する日本製鉄の菅部長（右端）

パネルディスカッションでは課題への取り組みを語り共有

来賓挨拶では、株主である日本製鉄の菅英之介参与・薄板営業部長が上映ムービーについて「鉄鋼業の課題や社員の力強さを見事に表現している」と絶賛。若手時代に同社への出向経験を持つメタルワンの佐久間匠執行役員・薄板事業部長は、映像に登場した旧六郷本社を懐かしみつつ25年度の成果に謝意を表明し、「五十鈴の多彩な人材力を心強く感じており、当社も全力でサポートする」と語った。

4月に入社した新入社員も「明日への挑戦」を表明

終盤には出席した社員らが「明日への挑戦」を自らの言葉で熱く表明し、最後は全員で社訓を唱和して閉会した。

総会後には東京国際フォーラムに場所を移し、懇親会を開催した。6月で退任する宮川恵介取締役（常務執行役員CFO、CRO）が、鈴木社長の就任とともに創立70周年を迎えて「第三の創業」を掲げた22年4月からの日々を振り返り、今後のさらなる発展を祈って乾杯の音頭を取り開宴。会は終始和やかな雰囲気で進み、中締めは執行役員の諫山裕一郎五十鈴中央社長が務めた。31年ぶりに大和サービスセンターが受賞した最優秀拠点賞（MVC）のリハーサル時の裏話を披露して会場を沸かせた後、改めて社員らに感謝を述べ、一本締めで盛況裏に散会した。